

BOOK&情報誌

女性のための情報誌



静岡県内の各市町村で発行されている女性のための情報誌。身近な情報は案外役に立つもの。お問合せは、各市町村まで

- | | | |
|-----------------------|-----------|------------------------------|
| 左から | | |
| パ
ザ
パ | Pas à pas | 静岡市女性会館発行 |
| Wave | アイセル通信 | 静岡市女性会館発行 |
| ひと
ひと | 女と男の情報誌 | きらり 富士市保健女性センター
女性施策推進室発行 |
| まい
舞 | か
香 | 浜松市教育委員会発行 |
| 咲
く
っ
と | | 長泉町教育委員会発行 |
| こ
う
さ
て
ん | | 袋井市教育委員会発行 |

行動する前に読むお役立てBOOK



ボランティアブック
これから始めるあなたへ
ボランティア・ワークショップ編
(ブロンズ新社)



女のグループ活動資金づくりの本
財団法人 横浜市女性協会編
(学陽書房)



民間助成金ガイド助成団体要覧
財団法人 助成財団資料センター編
(第一法規出版)



ジェンダー(Gender)

女らしさ、男らしさといった社会的・文化的につくりあげられた性差を「ジェンダー」といいます。これに対し、男性、女性という生物学的な性差をセックスといいます。

女らしさ、男らしさといった性差は、自然で、先天的なものと考えられてきましたが、実は社会や家庭において「女は女らしく、男は男らしく」と要求される結果、日々つくりあげられてきたものです。この意識が「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分業意識の根本となっているといえます。

女性のエンパワーメント(Empowerment)

政治・経済・社会・家庭などあらゆる分野で、女性が男性と同じ権利を行使するために、女性自身が力をつけること。そして、連帯して行動することをいいます。これは自分たちの状態・地位を変えていこうとするための、きわめて行動的で自立的な考え方です。

1995年の第4回世界女性会議でも「女性のエンパワーメント」が主要課題の一つとなりました。

ねっとわあく編纂員の おすすめ BOOK



主夫と生活

マイク・マクレディ 著
伊丹十三 訳

売れっ子コラムニストが、人もうらやむほどの収入と地位を捨てて家庭に入る。代って家族を養うのは、会社を興した妻。
著者は、細々とした家事と格闘しながら、主人である限り男には想像もできない主婦の暮らしを知る。役割交換をして、初めて互いに実感する相手の抱える問題。誰もができる限り自由で階級差のない家庭を目指して、新しい契約を作った家族の一年間をユーモアたっぷり描いた体験記。とにかくおもしろい!



学陽書房

カラーパープル

アリス・ウォーカー 著
柳沢由実子 訳

黒人で貧乏で醜く、しかも女というアメリカの黒人社会の差別をすべて背負ったセリーは、名も知らない男のもとに嫁がされ、夫の暴力に耐えていた。最愛の妹に、「勉強して光を見て欲しいと願っている黒人たちがいるのよ。関わなきや駄目」と励まされ、また男とか女とかを越えた自分の生き方を貫くシャグに影響され、自立した女に成長していく。元夫は、しだいにそんな彼女の存在そのものを認めるようになり、改めて結婚を申し込む。今度は体だけでなく魂もと。



集英社文庫

帰還 ゲド戦記最後の書

ル・グウィン 著
清水真砂子 訳

ゲド戦記は不思議な物語である。ゲドという一人の魔法使いが闇と戦うというファンタジーでありながら、読者は知らず知らずのうちに自分のこと、世界のことを思いを馳せる。シリーズとして4冊あるが、最終巻「帰還」が1993年に出版されて「一人の男の物語」であると同時に女の物語であったことに気づいた。それもフェミニズムの問題を真正面から捉えている。何度も読み直して味わいたくなる本だ。



岩波書店

1945年のクリスマス

ベアテ・シロタ・ゴードン 著

憲法学者でもない22歳のアメリカ人女性が、日本の憲法を書くというチャンスに恵まれる。少女時代を過ごし、自分を育んだ「日本」を良くするということが、日本の女性と子どもを幸せにすることだと信じて、9日間（しかし、彼女にとっては生涯でもっとも密度の濃い時間）必死に考え抜いた成果が今の日本国憲法の人権条項である。

日本人のために血が滲む思いでまとめあげた社会保障制度の条項が「詳細は制定法によるべき」との見解の前に無残にカットされ、彼女が悔しさに涙する描写は切ない。

憲法に謳われている男女平等の意味をもう一度考えさせてくれる一冊。



柏書房

リブとフェミニズム

井上輝子
上野千鶴子
江原由美子 編
天野正子 編集協力

日々の生活の中で女性問題について考え始めると、行きつくところはやはり、「きちんとフェミニズムを学ばなければ」ということではないだろうか。このシリーズは全7巻。欧米とはやや違う日本のフェミニズムの現状や、その歴史について詳しく学べる。多岐にわたる分野から選抜された執筆者の論文からは、フェミニズムという学問のまだ熟し切っていない新鮮さと気鋭が感じられるのもうれしい。



岩波書店

編集後記



(浜松市) 横井 美さん

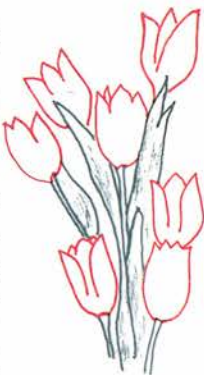
情報誌作りについて、やっとわかってきたところで任期終了、少し残念です。

準備不足、経験不足、その上時間のゆとりも不足で、一人前の戦力として動けなかったことを反省しています。しかし、個人的には多くのものを得ました。取材を通じて、普段の生活では決して会うことのできない方々に会えたこと、久し振りにチームとして仕事をする中で、逆に自分の特徴が見えてきたこと、さらには、「あざれあ」を通じて本県の特徴も少しですが、認識できたことなど、とても豊かになった気がします。これからは、職業という窓を通して、ゆっくりと着実に、女性の生き方について考えていきたいと思っています。最後に、個性豊かなスタッフと編集員の皆さん、ありがとうございました。皆さんとの出会いが、一番の財産なのかもしれません。楽しかったです。



(浜松市) 原田 雅子さん

自分以外は皆、常識の通じない宇宙人では？と全員が「我こそ常識人」を主張した個性的な編集員の仲間たち。ほんの少し前までは知らない人間同士であったことなど信じられないほど、様々なことをぶつけ合い話し合ってきた1年間でした。5人の仲間だけでな



く取材を通じてお話を聞かせていただいた多くの皆さんからも、すばらしい刺激を受けることができました。

人と人が理解し合うということは、とても困難なことなのかも知れませんが、でも、おずおずと手を差し伸ばせば、きっと何かが始まるもの。「ねっとわあく」で得たものを糧にして、また何かにチャレンジして行こうと思います。



(小山町) 鈴木 則子さん

母親業にハマって、かれこれ10年。なかなか捨て難い日々ではあるが、「行かねばならぬ、行かねばならぬ」と山を下って、小山からはるばる「あざれあ」へ。

みんなで進める共同作業は決定迅速、任務貫徹、協調不可欠、捨てるな自分。かなり怪しいものもあつたけど、こういう空気は久しぶり、久しぶり。加えて、取材した方々からは、考えさせられたり、励まされたりの貴重なお話。記事にするとこんなに短くなってしまつて、すまんすまんと思いつつ、まさにに役得と思うところ大。そうなのだから、りちゃんもがんばれよ」の幼い声に送られて出掛けた日々を懐かしむ頃までには、私も少しは何かをつかんだ人になりたいてはないか。この半年を、残りの半生に生かすため、更に私は「行かねばならぬ、行かぬばならぬう！」



(金谷町) 谷口 多智子さん

あの阪神淡路の地震で、20年ぶりに住み慣れた関西を離れて、故郷の静岡にやってきた。少しづつ積み重ねてきた仕事はどうやら、思い通りの形になりつつある時の災害だった。根こそぎ大地からもぎ取られ流される流木のようで、どこかで止まって新しい生きる道を見つけないかと思つていた。そんな時、目についた編集員の募集。運よく採用され、着実にのびのびと自分の人生を歩んでいる多くの人々に出会い、時にめげそうになる気持ちを引き立てることができた。しかしまだ、あの日の病院の光景が思い出され、朝、涙でくしゃくしゃで目覚めてしまう時がある。若い人が自ら命を断つたというニュースを聞く度に、何人もの若者が、志半ばにして逝ってしまうのを見ていた者の責任として命の大切さを何らかの形で訴え続けていきたい。ありがとうございます。



(富士川町) 若月 妙子さん

ねっとわあくの編集員はいずれ劣らぬ個性派揃い。まさに超ウルトラスーパーD迫力の異質集合体だ。しかし、相手にとっては自分も異質。初回の企画会議から凄かった。人の話を最後まで聞かないという驚愕の会議に強い疲労感を覚えた。そして、自分が日頃進めている仕事の仕方・価値観が全てで

はないと認めることがスタートラインだった。やがて、一人ずつの持つ個性が自分の眼に「相手の良さ」だと、映った頃から互いの能力を発揮することで目標は達成できる、足りないところは補完しあえると思えるようになった。相互の信頼関係のないところにチームワークなど成り立たない。円滑に物事を進めるには、まずお互いを理解しようとする。これに尽きる。最後に：異質体同士が衝突した時、初めて自分を意識して個性が発見できるものだ実感。

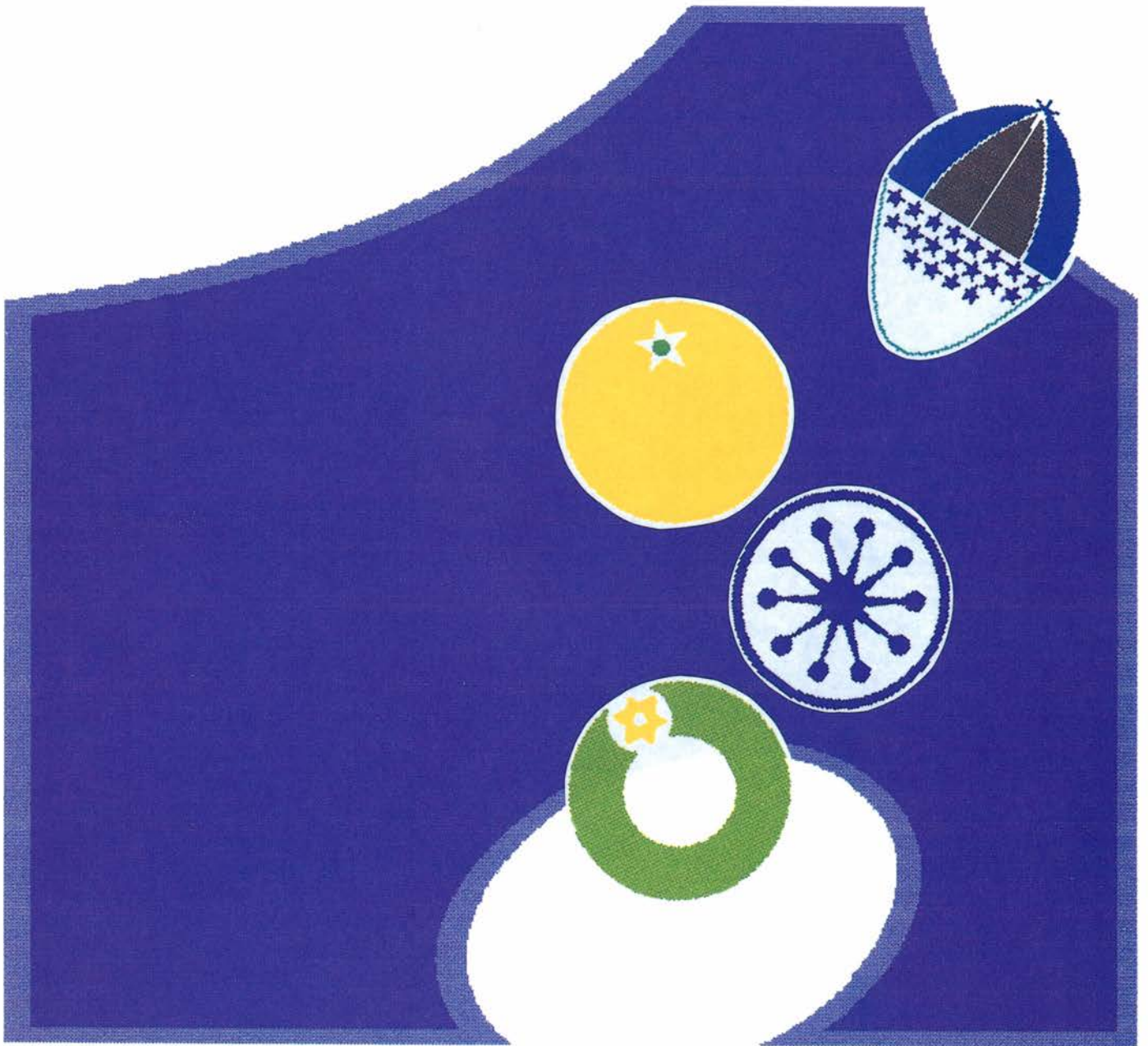
表紙デザイン

「協調・融和」を色彩で表現したのが今回の表紙デザインです。赤／緑・紫／黄といった補色関係の効果的なバランスをテーマに、夢と希望をわが富士に託しました。

静岡県デザインセンター
小杉 思主世さん

わたくあく No.28

発行 平成8年3月
発行者 静岡県女性総合センター
住所 〒422 静岡市馬淵1丁目17-1
電話番号 ☎054-250-8107



静岡県

「ねっとわあく」は再生紙を使用しています。